

長野県立須坂病院家庭医療学会認定後期研修プログラム 「家庭医養成塾(3年コース)」

1. はじめに

日本の医療をめぐる状況は、21世紀に入って大きく変容しています。世界に類を見ない速度で進行する少子高齢化は以前から予測されていましたが、急速に変動する社会環境のなかで、医療を受ける国民側の心身の問題は予想以上に多様化している感があります。今それに対応する医療従事者が絶対的に不足しています。

そうした状況の中、一人ひとりの健康問題を、患者の身体所見だけでなく家庭や地域の枠で捉えて解決していくことは、日本の医療でもっと重視されて良い概念であり、欧米で family doctor と称する家庭医を養成することは、これを満たす1つの手段としてますます必要となってきました。

また、医療費の膨大化による保険制度の見直しや、研修医制度の改編による若手医師不足などは、過疎地域を中心に予想以上に大きなインパクトをもたらしています。

この状況は長野県も例外ではないことから、長野県では県内の過疎地域を主体とした医療を担う人材を、既存の医療資源を活用しながら新たに養成することを、県の重要な保健医療政策として実施することを決定しました。

本プログラムは、患者、家族、地域の視点から保健医療へ包括的に取り組める「家庭医療の専門家」を養成する3年間の後期研修コースです。

このコースを規定に従って修了すると、日本家庭医療学会より家庭医療専門医として認定されることになっております。

また修了後は、長野県職員または県内自治体病院や診療所などへ円滑に就職できるよう、県として支援する体制を整えております。

初期研修中の新卒医師だけでなく、子育てなどで暫く医療の第一線から離れていた既卒医師にも門戸が開放しておりますので、全国各地からの積極的な応募を期待します。

長野県立須坂病院長 齊藤 博

2. 本プログラムの目標

2-1. 一般目標

本研修を修了した後、活動する地域の保健医療面のニーズと問題点を理解し、他の保健医療従事者や地域住民と協調しながら、問題解決できる素質を習得する。地域住民から信頼される家庭医としての人格を涵養する。

2-2. 到達目標

2-2-1. 家庭医療

- 1) 患者、家族、地域の視座に立った診療と連携ができる
- 2) 科学的根拠に基づいた診療方針が立てられる
- 3) 過疎地の診療所や小規模病院で求められる適正な医療手技が安全に実践できる

2-2-2. 地域包括ケア

- 1) 地域で重要と考えられる健康問題に関して、治療と予防の立場から介入できる
- 2) 地域の保健医療従事者と職種を超えて協調できる
- 3) 地域住民に対して、科学的根拠に基づいた健康教育・啓発ができる
- 4) 地域の保健医療を実践する上で必要となる医療と介護分野の法律や知識を習得し、活用できる

2-2-3. 自己修練

- 1) 家庭医療学の基本を習得した上で、それを自立的に発展できる
- 2) 家庭医療や地域包括ケアから学んだ新しい知見を、研究会や学会で報告できる
- 3) 家庭医療や地域包括ケアから学んだ経験を、後進医師や医療従事者へ伝達できる
- 4) 家族や地域住民と共に、安寧な日常生活を営む事ができる

3. 研修施設

原則的に、以下の長野県立病院で研修を受ける。

<県立病院>

須坂病院：都市周辺地域の第二次医療施設として

木曾病院：過疎地域の基幹医療施設として

阿南病院：過疎地域の小規模医療施設として

駒ヶ根病院：精神神経科の専門医療施設として

こども病院：産科、新生児科、小児科の専門医療施設として

<診療所>

伊那市国保美和診療所

4. 指導体制

当院が中心となり、以下の研修担当者等による委員会を組織し、研修プログラムの指導・調整を行う。

＜研修担当者＞

研修総責任者：上沢 修（長野県県民医療室長、須坂病院副院長）

研修担当者：小林 永幸（須坂病院医監）

小山 佳紀（木曽病院医長）

5. 研修プログラム

5-1. 後期研修 1年目

当院で、内科、総合診療、救急医療、在宅診療を中心とした研修を受ける。

5-2. 後期研修 2年目

以下の専門研修カリキュラムから研修医の希望により3ヶ月単位で選択し、プログラムを作成する。

ただし、小児科研修3ヶ月は必修とする。

＜専門研修カリキュラム＞

駒ヶ根病院（精神科・神経科）

こども病院（小児科）

阿南病院（地域保健）

木曽病院（内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科、眼科から選択）

須坂病院（内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻科、放射線科、臨床検査科から選択）

5-3. 後期研修 3年目

伊那市国保美和診療所における6ヶ月の研修、及び以下の専門研修カリキュラムから研修医の希望により6ヶ月単位で選択し、プログラムを作成する。

＜専門研修カリキュラム＞

伊那市国保美和診療所（診療所研修）

阿南病院（地域保健）

木曽病院（内科、外科、産婦人科、整形外科、眼科から選択）

須坂病院（内科、外科、産婦人科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻科、放射線科、臨床検査科から選択）

※ 研修施設、カリキュラムの作成については、研修医本人の希望を尊重する。

6. 研修プログラムの評価

研修プログラムの評価は、研修担当者による委員会により、当院が実施している一般の後期研修プログラムに準じた方法で行う。

7. 研修修了後の進路

研修修了者に対しては、自治体病院（県立病院含む）や県の公衆衛生部門の医療職職員として採用されるよう取り計らう。

また、県内過疎地域の診療所へ就職を希望する者へは、適切な施設を斡旋する。

8. 募集要項

須坂病院ホームページ（<http://www.pref-nagano-hosp.jp/suzakahosp/>）を参照。